

開催地名：岐阜県輪之内町	
開催日時	令和4年11月13日（日） 9：30 ～ 11：00
開催場所	輪之内町文化会館
語り部	菅井 茂 （宮城県仙台市）
参加者	区長・防災士 32名
開催経緯	<p>本町は長良川・揖斐川の2つの河川に挟まれた位置にあり、「洪水常襲地域」とも言われ、洪水のリスクが非常に高く、水害に悩まされてきた地域である。また、地盤についても沖積層の堆積が厚く、非常に軟弱であることから、南海トラフや断層系の大地震が発生した際は甚大な被害が発生することが予見されている。幸いなことに直近では大規模な災害は発生していないが、その反面、災害の記憶やそこから得た教訓も薄れつつあり、大規模災害に対するノウハウの不足や、災害に対する危機意識そのものが希薄化していることが危惧されている。それは町内の自主防災組織も同様であり、「自分たちの命は自分たちで守る」という基本的な考えや防災に対する当事者意識を植え付け、住民が自ら災害に対して考え・行動するといった体制の構築が急務となっている。</p>
内容	<p>（1）大震災発生時の状況</p> <p>私は2011年3月の発災当日、打ち合わせで県内の鳴子温泉に滞在しており、帰宅途中の車の中で激しい揺れを体感した。それは車外に放り出されるくらいのもので、今までに体験したことのない大きな揺れだった。揺れが収まった後、すぐに地元へ連絡を試みたが、すでに携帯、固定電話ともに寸断されており、連絡がつかなかった。大規模な停電も発生して真っ暗闇の中、そのまま慎重に車を走らせて、何とか地元に戻った。予想通り自宅はおろか、その周りはめちゃくちゃな状態となっていたが、海岸沿いの地域ではなかったため津波の被害はなかった。その後、地域住民の安否確認をすべく自宅近くの避難所へ駆けつけ、被災者の受け入れ、人数の把握に奔走することとなった。</p> <p>（2）避難所に詰めかける人々</p> <p>地震発生後、私は南材木町小学校で避難所開設の準備をしていた。20時前に水と乾パンを全員に配り、その際に905名が避難していることが判明した。避難者数は最終的には1,200名になった。仮設トイレを北側にも設置したが、寒くて誰も使用しなかったため、翌日に急遽東側に作り直した。また、自家発電機は2基あったが1基は作動しなかった。こうしたことも、日頃からのチェックが必要であると反省した。3月11日の夜、避難所運営委員会を立ち上げ、役割を分担し、ボランティアを募った。その結果、若い人が寝ずの番でトイレ番をしてくれるなど、トラブルもなく運営できた。</p> <p>振り返ると、避難者に対して避難所内の決まりごとを周知して、実際にそれらを遵守してもらったことが、トラブルもなく快適に運営できた要因ではないかと思う。具体的には、避難所内では「禁酒」、「禁煙」とし、避難所の起床時間は6時半、朝食が8時、夕食が17時として、1日のスケジュールを明確化した。地区内で倒壊家屋はなく、主たる被害は断水だけだったので、帰れる方は帰宅して食べていただくようご案内した。また、ライフラインが復旧した</p>

ら帰ってほしいとあらかじめお伝えしていたこともあり、震災が発生して 10 日後の 3 月 21 日には、全員速やかに帰宅してもらった。

(3) 避難所運営がうまくいった要因

私は、3 月 13 日からは八軒中学校の避難所へ行った。こちらには 460 名の避難者がいた。避難所は避難した人たちのホームである。地区の代表者を係に決め、少しでも住みやすい環境を作るために、希望や不満を伺った。その結果、毎日ラジオ体操を実施することや、女性には食事の献立を決めてもらい、調理してもらうことを決め、すぐに実行した。

また、八軒中学校合唱部は、3 月 19 日の全国大会に出場予定であったが、参加できる状況ではなかったため、武道場で、父兄及び避難者対象に合唱してくれた。この光景が様々な形で報道され、辛い避難生活の中での明るい話題として心を和ませてくれた。

避難所運営がスムーズに行われたのには要因があった。まず 1 つは、平成 17 年から地域で総合防災訓練を実施していたことである。平成 19 年からは避難所となった八軒中学校とも連携し、同校で防災訓練を行っていた。東日本大震災の 2 日前にも、同年の防災訓練について打合せをしたばかりで、避難所を開設したらどう動く、ということが頭に入っていた。さらに、地区の昔からの住民とマンション住まいの新住民が、小学校の諸行事を通じて互いに顔見知りになっていたことも大きい。こうした諸行事は、地域の人が出会う良い機会になる。震災後も、「防災訓練」にひと工夫して、様々な世代に防災の重要性を認識してもらうことをテーマに活動を継続している。地道な活動が、ひいては「自助」・「共助」のありかたを見直すきっかけにもなるかと思う。



開催地より

東日本大震災の体験談・教訓や、避難所における自主防災組織での活動について、わかりやすくお話しいただいた。本講演を受けて当町では、自主防災組織を中心とした防災訓練の実施による防災意識の啓発を拡充し、自主防災組織による自助・共助の体制強化につなげていきたいと思う。